

A グループの症例は LAD に留置した BMS の再狭窄病変。

TFI、8Fr で PCI 施行。再狭窄部より大きな中隔枝が出ており、中隔枝をプロテクトするためワイヤーを前下行枝と中隔枝にクロスした。中隔枝に対してステントストラットを越し POBA を行った。そのバルーンが抜けなくなり、力強く引っ張ったところバルーンのシャフトが断裂した。まず、スネアで断裂したバルーンの回収を試みたが、ガイドカテが深く入るだけで回収できなかった。最終的には 2.5mm のバルーンをガイドカテの先端で拡張し、バルーンストラットとらえて抜去に成功した。

#### 反省点と対策

- ・ あの程度の中隔枝は protect する必要はないのでは？
- ・ もう一本ワイヤーを中隔枝に引っ掛けてみては？
- ・ 前下行枝側にワイヤーをクロスさせ、バルーンのシャフトを絡ませてはどうか？

などの案が出たが、今回行われたような方法でも回収が可能であることを知った。